

# 21世紀的「大学街」の創出に向けて

三田キャンパス周辺における「大学-地域交流ラウンジ」の実験的開発

2004年9月21日

学術フロンティア「インターキャンパスの創出による多文化共生の可能性」

研究責任者 熊倉敬聡

研究員 坂倉杏介

三田キャンパスの立地する港区芝・三田地区は、店主の高齢化や店舗のチェーン店化、学生のライフスタイルの変化によってかつてのような学生街としての活気が失われつつあります。さらに近隣の麻布十番商店街が地下鉄の開通や大規模開発による発展を遂げ、田町駅・品川駅東口では駅前再開発・臨海地区のマンション開発による居住人口・就業人口の増加が進むなど競争環境が激化していることから、特に芝・三田地域では商店会などが危機感を持ち、(組合員でもある)慶應義塾と連携した中・長期的なまちづくりへの期待が高まっています。

そこで私たちは、21世紀的な地域・社会・身体に開かれた大学像を生み出すひとつのプラットフォームとして、オン・キャンパスとオフ・キャンパスのダイナミックな相互作用による新たな知の創発の「場」(=まずは「大学-地域交流ラウンジ」として出発する)の創出が有効だと考えています。

この「場」は、大学が地域に対して一方的に知的リソースや教育プログラムを提供するだけではありません。大学内の学部・研究組織の「あいだ」、大学と外部組織・個人の「あいだ」(学生にとっては社会参加への新しい道筋になるでしょう)を創造的にコーディネートする、実践的な研究・教育の共同体の拠点/組織として位置づけられます。

そのための第一段階として、現在、三田商店街振興組合との共同で、東門向いにある組合集会所を利用した「大学-地域交流ラウンジ」の運営を検討しています。

この大学と地域の間領域にあるラウンジでは、様々な実験的教育プログラムや大学のリソースを生かした地域活動、あるいは大学知そのもののあり方を再編させていくような知的試みが行われるでしょう。さらには、こうした活動を通じて段階的に大学・商店会・企業・行政との連携が深まることで、長期的には大学内と周辺地域が有機的に結びついた新たな「大学街」が形成されるとともに、その過程で、既存の知のあり方や教育システムの再編成が期待されます。

## 段階的発展のイメージ

